

# 組合だより

発行所  
**岡山大学職員組合**  
 〒700-8530 岡山市津島中2-1-1  
 電話 086-252-1111（代）  
 （内線）7168  
 直通・FAX 086-252-4184

岡山大学職員組合ホームページ <http://hb4.seikyoku.ne.jp/home/ODUnion/> メールアドレス ODUUnion@mb4.seikyoku.ne.jp

## 学長交渉に向けて 要求・意見を集約中！

学長交渉に向けて  
要求書づくり  
始まる

一月定例執行委員  
会において、来年度  
の計画、予算、給与  
未定、学長に交渉し  
て、二月以降の計画  
要求書づくりについて

議論され、どのよう  
項目や内容で要求し  
換がなされるか、二  
その後の会議では、  
日の三役会議を受け  
行委員会の議論を受  
て、とりあえず、次の  
諸項目を柱に要求書  
とりにまとめようとい  
ことになりました。



### 要求書の項目(案)

- 一 独立行政法人化問題
- 二 トップ三問題
- 三 大学の改組問題
- 四 教員評価問題
- 五 教育体制の改革
- 六 予算配分の形式
- 七 学内の意思形成
- 八 労働条件の改善
- 九 その他

### 教員の個人評価 慎重審議を！

第七常置（評価）委員  
会は、一〇月、岡  
山大学における教員  
個人評価（案）をま  
とめました。現在、各  
部署の意見のとりま  
めに入り、一二月教  
会の議論を踏まえて、  
今月末の委員会にお  
いて確定し、一月部  
長会議および評議会  
最終決定の予定です。

### 結果の利用

「部局の長は、問題  
があり改善の余地が  
ある」と評価された教員  
に対し、活動の改善に  
ついて、適切な指導及  
び助言を行う。」  
「やや問題があり改  
善の余地がある」と及  
び「問題があり改善を要  
する」と評価された教  
員は、所属部局の長に  
次の評価期間における  
活動改善計画書を提出  
する。」

### 要求書づくりに 要望・意見を お寄せ下さい

なお、例年の例  
が実現するとの交  
渉が十分予想される  
四月以降に交わ  
る、例えば、  
教員評価の問題  
非常勤職員の暫  
定的な(特例)一時  
金相当給与支給  
入学式での「君が  
代」演奏問題  
などの事項につ  
いては、緊急要  
望事項として、  
一月中にも提  
出して、

### 個人評価」の要点

以下にその「実施概  
要」から要点のみを抜  
粋します。

【目的】  
「教員個人の活動状  
況について点検・評価  
し、その活性化に役立  
てる」とともに、本学  
運営等の改善の資料と  
し、もって本学の教育、  
研究等の向上を図る。」

【方法及び手順】  
「個人評価調査表」を  
各教員が自己の活動  
状況を記入し、「各  
部局の長は、教員の作

### 座標軸

九月一日は、世界  
をどう変えたか。いろ  
いろな見解があるが、  
一つだけ非常につま  
りした事実がある。そ  
れは、アメリカが信じ  
られないような憎悪の  
対象であったというこ  
とが意識され始めた  
ということである。憎悪

成した個人評価調査表  
に基づき、教育、研究、  
社会貢献及び管理・運  
営の4領域につき各5  
段階で評価する。そし  
て、教員の職務の実態  
などを考慮し、各領域  
の評価に重みを加え、  
4段階で総合評価を行  
う。この評価の実質的  
な作業は、当該部局の  
個人評価部会が担当す  
る。」

「部局の長は、問題  
があり改善の余地が  
ある」と評価された教員  
に対し、活動の改善に  
ついて、適切な指導及  
び助言を行う。」  
「やや問題があり改  
善の余地がある」と及  
び「問題があり改善を要  
する」と評価された教  
員は、所属部局の長に  
次の評価期間における  
活動改善計画書を提出  
する。」

教員一人ひとりの活  
動状況」すべてに関係  
するものであるだけに、  
拙速に決定する前に、  
その内容についての慎  
重審議が不可欠です。

といつても、長期の準備  
と計画の中に込めら  
れるほどの、また、自  
分の身体を爆弾と化し  
て、「散華」しようとい  
うほどの冷静で突き詰  
めた憎悪である。世  
界貿易ビルに突入した  
テロの実行者の心理を  
思いやった人なら、そ  
の激しい憎悪に慄然と  
するに違いない。生な  
かな反米感情では、自  
分の身体を爆弾とする  
ことは出来ないはずだ。  
ニューヨークの現場  
で「米国は世界に尽く  
しているのに、なぜこ  
んな仕打ちを受けるの  
」と泣き叫んだ女性の声  
は多くの人の耳に残つ  
ているだろう。「米  
国が世界で何をしてく  
いたかを彼女が知らない  
のだ」というのは、ア  
メリカで活躍するアル  
ゼンチン生まれの劇作  
家アリエル・ドーファ  
ンが女性がミニスカ  
トをはくことができな  
いのは米国だった。米  
国はテロと戦うという  
が、テロリストピノチ  
エトを助け、テロでア  
ジエント大統領を倒  
させた。ニカラグアで  
テロリストを武装させ  
、エルサルバドルの  
テロリスト政府を助け  
たのも米国だ。強者は  
忘れるが、敗者は忘れ  
ない。と。九月一日  
が、アメリカが、自ら  
を省みる契機となれば  
、それは犠牲者へのせ  
めてもの慰めとなる  
。(い)

### 全大教中四協

#### 教育大学 学部 情報交換会を開催

去る十一月十七日、教育大学において、全大教中四国地区協議会主催・岡山大学教育学部単組共催により開催されました。

参加単組および参加人数は、広島大学2名、山口大学2名、島根大学2名、高知大学1名、香川大学1名、そして岡大5名(連合体2名、教育単組3名)の計6単組一三名でした。

その内容は、教員就職率の33.7%(平成二年度)への低下、小規模教員養成課程の増加(入学定員1000人以下の学部が全体の三分の一の十六学部)、教員養成を目的とした新課程の増加(学部全体の約4割)などを理由に、「これまでの1都道府県1教員養成学部」の体制を見直し、「再編・統合」を行う、というものです。

### 教育学部の「再編・統合」に心懸

話題は、その直前、十一月六日に、「国立教員養成系大学」の在り方に関する「国立大学の在り方に関する報告書」(案)に「国立大学の在り方に関する報告書」として、「最終、文科省に一提出されました。

すでに、どの大学でも、「こうして報告」内容を先取りした動きが出てきており、拠点校になるための準備を積極的に行っている大学、教員養成系に新規に統合し、新しい課程を取り組もうとしている大学等、「積極的に情報交換の場となり、有意義な交流の場となりをしました。

### 各大学 学部の動きについて、積極的に情報を交換

### 職組日誌 (10~11)

- 10月
- 1【医】執行委員会
- 12【文法経】執行委員会
- 13【全大教】単組代表者会議 (東京)
- 15【連合体】三役会議
- 17【教】教執行委員会
- 19-20【全大教】九州中四国書記研修会議
- 23【連合体】第3回執行委員会
- 24【農】執行委員会
- 27【農】いもほり会
- 28【全大教】単組代表者会議 (東京)
- 11月
- 3 11・3 憲法集会
- 12 人事院交渉
- 19【連合体】三役会議
- 17 中四国教育学部情報交換会
- 17-18 医大懇 (神戸)
- 27【連合体】第4回執行委員会

### 医学部単組から 神戸医大懇成功!

一月一七・一八日、神戸で全大教主催の第一回全国医科系大学職員懇談会が開かれた。

#### 一〇〇名参加

全国一七大学から一〇名が参加した。岡山大学からは、九名が参加。安心できる医療と働きがいのある職場づくりがテーマ。

#### 小泉「構造改革」批判

初日は、神戸大学大学院教授山家悠紀夫の記念講演。山家氏は小泉「構造改革」、「赤字」を口実にした大学関係予算削減を厳しく批判した。

二日目は、分科会。岡山大学は、「安全・安心医療」、「看護の専門性確立・労働条件改善」、「医(二)職員」、「保育所」などの分科会に参加して討論に加わる。

#### 再発事故防止へ

第一分科会・京大職組(病院支部)からのレポート、「医療事故再発防止」とわたしたちの役割」をはじめ、力のこもった報告が相次ぎ、活潑な討論が行われた。

「増収路線」、「非常勤看護増」、「院内保育所へ消費税」などに厳しい批判が相次いだ。(医くみあ) だより二四七号から

### 文部科学委員会10/31 大学構造改革関連質疑 速記録から

### 文科省の中に作る委員会は「第三者」か?

一月三十一日の文科省委員会の速記録を偶然目にした。遠山文部大臣が、共産党の石井郁子議員の質問に対して「何人かの委員の答えを聞いていないからではないか」と発言し、取り消しを求められた委員会の速記録である。

### 文科省直轄の委員 会では?

委員会、こうした審査委員会において公正、公平を図られるよう意を用いてまいりたいと思えます。」というものであった。むしろそれは石井議員の質問に対する答えと比べていない。議員はさらに質問を重ねる。それに対して大臣が「答えを聞いていないからではな

### 聞いていないは大 臣側

としているのである。質問のポイントを聞いていないかずらしているのは、大臣側である。もし大臣側に十分な質問に答えようという姿勢があるのなら文科省の中に作るといつても、それはあくまでも形であつて、委員の選出については公選制をとるなど文科省が相手盛り人選するのではないとすることを明言する必要があるだろう。

### 自己の権力性に盲目 柔軟性欠如の文科省

錦繡の秋という。木枯らしが吹いて紅葉を散らしていくが、まだ街も野山も、豊かな彩りの中に佇んでいる。だから坂をのぼつていくと、ピラカンサスの赤い実が、朝日に映えて美しい。「霜玉は二月の花よりも紅し」などともじつてみたりする。

### 散歩道

紅き実が  
炎と燃える  
丘の道

また、審査についての異議が出た場合の処置などについても、きめ細かい制度設計を明示する必要はあるだろう。

自分たちは公平公正透明にやるつもりだから第三者だといくら繰り返しても、質問者との距離はつまらない。文科省が国家権力であるという自己の権力性に気がついていない。質問者の質問についていく柔軟性がなく、ついていけないと権力的にかさにかかると聞かされてくると文化学術の根底を問い直してはじめて大学改革が可能であるとき文化とは縁遠い大臣側の権力的体質を思うと日本の学術文化の将来が心配である。(3)

### 公正、公平を 図りたい

これに対する岸田副大臣の答えは、「専門家や有識者で構成される審査委員会、こうした審査委員会において公正、公平を図られるよう意を用いてまいりたいと思えます。」というものであった。むしろそれは石井議員の質問に対する答えと比べていない。議員はさらに質問を重ねる。それに対して大臣が「答えを聞いていないからではな

(k)